

キャット スティ ブンス (元人 歌手 イギリス) (パ ト2/2)

:

明:70年代の最も有名なミュ ジシャンの一人による真 への探求パ ト2:クルア ンとイスラ ムの受容。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: キャット スティ ブン?

日05 Dec 2009

集日 05 Dec 2009

クルア ン

彼はロンドンへ った 、クルア ンの翻 を持ち ってきて、それを私にくれました。彼はムスリムにこそなりませんでしたが、この宗教に何かを感じていて、それで私もそこに何かを感じるのではないかと思ったのでした。

そして本を受取った 、 きが全て 私は なのか? 人生の目的は何なのか? 何が真 で、真 となるのか? 私はどこから来たのか? を 明しました。私はこれが真の宗教であると しました。西洋の感 で理解される宗教ではなく、老人だけのものでもない宗教。西洋でも、何らかの宗教に改宗しそれを自分の生き方にしたいとする者は狂信的だと考えられます。しかし私は狂信的ではありませんでした。私は以前、肉体と魂との で混乱していました。しかし今や私は肉体と精神はかけ れたものではなく、宗教的になるために山へ行かなくてもいいのだということに づいたのです。私たちは神のご意思に わなければなりません。そうすれば天使よりも高い位 に することが出来るのです。まず私はムスリムになりたいと思いました。私は全てが神に属し、かれは休止もしないことに 付きました。かれは全てを 造されたのです。以前私は、自分がここに存在している理由は自分自身の 大さゆえであるという考えていましたが、この 自分の中にあるプライドを失い始めました。私は私が自分自身を 造したのでもなく、私がここにいる全

ての目的はイスラ ムとして知られている宗教によって完全化された教えに うことであると づいたのです。この 、私は自分の信仰を し始めました。私は自分がムスリムであると感じました。またクルア ンを んでみて、全ての 言者が同じメッセ ジを携えて神により遣わされたことを知りました。またなぜ、ユダヤ教徒とキリスト教徒は うのか？私はどうしてユダヤ教徒がイエスを救世主として受け入れず、彼の言 を えてしまったのか分かりました。キリスト教でさえ、神の言 を 解し、イエスを神の息子であると言ったのです。全ては理屈に いました。これがクルア ンの美しさです；それはあなたが 熟 や思考を促し、月や太 ではなく、それら全てを 造されたお方を信仰するように命じています。一般にクルア ンは、人に太 と月と神の 造物を熟考するよう命じています。月と太 がどのくらい うかお 付きですか？それらは地球からそれぞれ 違った距 に位置していますが、しかしいつも同じ位の大きさで えるのです；そしてある は一方が他方を覆うように えることもあります。

多くの宇宙 行士が宇宙へ行った でさえ、彼らは宇宙の膨大な さにおけるちっぽけな地球を るのです。そして彼らは神のしるしを た に、大 宗教的になるのです。

クルア ンを更に むと、礼 や 切、施しについて述べられていました。私はまだムスリムではありませんでしたが、クルア ンが私のたった一つの答えであると感じ、神がこれを送って下さったのだとしてそれを秘密にしていました。しかし、クルア ンはまた った段 のことを述べています。私はクルア ンの“信じる者は不信心を友に持たず、信者同士は兄弟である”というくだりで、 う段 としてのクルア ンを理解し始めました。そしてこの 、ムスリム同胞に会いたいと思うようになったのです。

改宗

そして私は（私の兄弟がそうしたように）エルサレムへの旅を めました。エルサレムで私はモスクに行き、その中に座りました。するとある男性が私に、何がしたいのかと ねてきました。私は彼に、自分はムスリムであると言いました。彼は私の名前を ねました。私は彼に“スティ ブンスだ”と言いました。彼は混乱しました。それから私は礼 に参加しましたが、余り上手く出来ませんでした。それから私はロンドンに り、

ナフィサという妹に出会いました。イスラームに改宗したいという旨をえると、彼女は私をニュレジェンドモスクへ案内してくれました。これは私がクルアーンを受け取って1年半の、1997年のことでした。この私は、自分のプライドを捨て、サタンを捨て、一つの方向へ行かなければならないとしました。そしてある金曜日の合同礼拝の、私はイマーム（礼拝のリーダー）の元へゆき、彼のもとで信仰告白（シャハダ）をしました。私は以前名声と富を築きましたが、いかに努力してもクルアーンを心せられるまでは心を手にすることは出来ませんでした。今私はキリスト教や他の宗教と同じ、神と直接接触できます。あるヒンズ教徒の女性は“あなたはヒンズ教を理解していません。私たちは唯一神を信じていますが、ただ偶像をそこにおいて集中するために使っているだけなのです。”つまり彼女が言うことには、神に近付くためには何かその共同者を信ねなければならず、偶像の目的はこれにそのためだったというのです。しかしイスラームはこれら全ての障壁を取り除いてくれます。不信心者を信仰者のしてくれるものは、サラ（礼拝）しかありません。これこそが神の道程なのです。

最後に、私が行う全てのことが神のご悦のためとなり、信者の皆方が私の心から何らかのひらめきを感じてくれることを祈ります。また私は、私がイスラームに改宗するまでムスリムと接触がなかったということを知りたいと思います。私はクルアーンを心み、完全な人などいないことに付きましました。しかしイスラームこそは完全で、信者の行いを踏することによって私たちは成功するのです。

神がムハンマドの共同体への道に私たちを導いて下さいますように。アミン！

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/86>

著作 2006-2015 断 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 断 を禁じます。